

平成21年度「専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン」成果報告書

事業名	高校内で実施する職業理解プログラムの開発と実施		
法人名	学校法人 福田学園		
学校名	大阪工業技術専門学校		
代表者	理事長 福田益和	担当者 連絡先	事務課長 浜野哲二 電話 06-6352-0091
1. 事業の概要等			
<p>●経緯・背景</p> <p>本事業は昨今の急激な経済状況の悪化で生活基盤に繋がる雇用の不安が明確になる中、企業側はコスト削減を叫ばれ、やむを得ず社内環境の整備・教育を短期間で終了する傾向に成りつつある。また、正規雇用者に対しては高度な技術と専門知識・職業意識・コンプライアンスを含む高い社会力を切望しており、その教育的役割を学校側に期待している。このように正規雇用はもちろん、非正規雇用も厳しくなっている状況で、せっかく正規雇用として就職しても人間関係に馴染めなかったり、入社前に考えていた業務内容が思いの外かけ離れていた等の理由により簡単に離職する若者も少なくない。更に、一度離職すると再就職が難しいのが現状であり、特に一旦非正規雇用になると正規雇用への道が非常に厳しいという現実がある。このような中で若者への就職支援はますます重要であり、とりわけ、早い時期からの職業観や勤労意識の育成が重要であることは多方面から叫ばれているところである。また、よりの確・効果的に職業選択につなげるためには具体的に職業内容について知り実体験できる機会を提供することが重要であり、各都道府県の専修学校組織では昨年度に「職業に必要な知識、技能、資格等の事例紹介」「体験授業や実践的な職業体験」といった講座等を傘下の専門学校で開設し高校生に提供してきた。しかしながら、昨年度実施事業を通じて高校や教育委員会より、できるだけ多くの高校生を対象に職業理解を深めるために高校での職業理解教育の実施を望む声も多数いただいた。また実験的に独自でそれに取り組んでいる専門学校もあり、実施した高校からの評価も高いことがわかっている。そのことから今年度は全国専門学校情報教育協会傘下の協力校に依頼し、高校の授業内で実施することを前提とした体系的な職業理解プログラムを開発し、その地域の教育委員会・高校と連携して実施し、それを全国に普及する。</p> <p>●特徴</p> <p>講座の基本構成は下記の通り。</p> <p>①『人と風土と近代建築シリーズ（風土と建築）・（ル・コルビジェ）・（3大巨匠）』 ・学年進行型：合計9時間</p> <p>②『ものづくりの世界とは？』 ・学年進行型：合計6時間</p> <p>③『強い構造物を作る工夫と秘密』 ・単年実施型：18時間</p> <p>④『エンジンの歴史とスターリングエンジンの仕組みを学ぶ』 ・単年実施型：6時間</p> <p>⑤『情報処理[国家試験対策]（基本情報処理）・（ITパスポート）』 ・単年実施型：各10時間</p> <p>⑥『ビルドアップ』（対人接客）・（公務員）』 ・単年実施型：各10時間</p> <p>⑦『Jプラス』（インテリアデザイン）・（福祉と医療）・（流通科学とビジネス）・（観光ビジネス）』 ・単年実施型：各20時間</p>			

●事業の実施

事業を実施するに当たっての役割分担は、各地区に於いてこれまで実施してきた出前授業をベースに、高校側との意見交換の中で今回の事業目的である『高校生の職業理解』という観点に基づいた内容に変更するのか、または新規に事業目的に合ったプログラム開発を行い実施する。次年度以降はこの実績を以って、各地区並びに全国専門学校情報教育協会傘下の専修学校に情報発信し全国への普及を図る。

●事業の概要

開設講座数 : 12 講座 (昨年度 8 講座)

参加専修学校数 : 7 校 (昨年度 5 校)

参加高等学校数 : 21 校 (昨年度 26 校)

受講者数 : 1072 名 (昨年度 1310 人 238 人減)

※参加高等学校数の減少は新型インフルエンザによる影響であり、関西地区で実施できなかったことが比例して受講者の減少となった。

開催時期 : 平成 21 年 7 月 8 日～平成 22 年 2 月 17 日

2. 事業の実施に関する項目

①職業体験講座の実施

①『人と風土と近代建築シリーズ (風土と建築)・(ル・コルビジェ)・(3 大巨匠)』

■現役建築家を講師とした体験談と作品紹介&見学

- ・平成 21 年 7 月 8 日開催 (京都府立宮津高校 : 72 名)
- ・平成 21 年 7 月 10 日開催 (愛媛県立東予高校 : 35 名)
- ・平成 21 年 7 月 15 日開催 (岡山県立岡山工業高校 : 100 名)
- ・平成 21 年 7 月 16 日開催 (岡山県立東岡山工業高校 : 75 名)
- ・平成 21 年 9 月 7 日開催 (高知県立高知工業高校 : 108 名)
- ・平成 21 年 12 月 16 日開催 (高知県立安芸桜ヶ丘高校 : 24 名)
- ・平成 21 年 12 月 17 日開催 (岡山県立津山工業高校 : 104 名)

②『ものづくりの世界とは?』

■現役建築家を講師とした体験談とものづくり体験実習

- ・平成 22 年 2 月 3 日～5 日開催 (大阪市立東淀工業高校 : 189 名)

③『強い構造物を作る工夫と秘密』

■ブリッジコンテスト (設計・製作・実験) の体験実習

- ・平成 21 年 9 月 10 日・11 日・18 日開催 (奈良県立御所実業高校 : 29 名)

④『エンジンの歴史とスターリングエンジンの仕組みを学ぶ』

■スターリングエンジン製作の体験実習

- ・平成 22 年 2 月 8 日開催 (兵庫県立東播工業高校 : 76 名)

⑤『情報処理[国家試験対策] (基本情報処理)・(IT パスポート)』

■国家試験対策を通しての職業理解支援講座

- ・平成 21 年 9 月 12 日、10 月 10 日開催 (佐賀県商業部会 9 校 : 152 名)

⑥『ビルドアップ (対人接客)・(公務員)』

■専門学校 (専門教育) を通しての職業理解支援講座

- ・平成 21 年 9 月 1 日～12 月 15 日の全 10 回開催 (沖学園高校 : 37 名)

⑦『J プラス (インテリアデザイン)・(福祉と医療)・(流通科学とビジネス)・(観光ビジネス)』

■専門学校 (専門教育) を通しての職業理解支援講座

- ・平成 21 年 10 月 21 日～平成 22 年 2 月 17 日の全 10 回開催
(福岡工業大学附属城東高校 : 71 名)

②その他

高校の授業内でのキャリア教育や総合学習の時間に利用できる効果的で且つ体系的な職業理解プログラムである。その為に、基本は学年進行型もしくは長期間に亘っての実施となっている。

3. 事業の成果・評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況・評価について

●受講生へのアンケート調査結果（各プログラム毎）

- ①『人と風土と近代建築シリーズ（風土と建築）・（ル・コルビジェ）・（3大巨匠）』
⇒（大変満足 73.4%・満足 15.7%・普通 9.3%・不満 1.6%・大変不満 0.0%／508名中）
- ②『ものづくりの世界とは？』
⇒（大変満足 38.3%・満足 38.8%・普通 19.2%・不満 1.6%・大変不満 2.1%／188名中）
- ③『強い構造物を作る工夫と秘密』
⇒（大変満足 89.7%・満足 10.3%・普通 0.0%・不満 0.0%・大変不満 0.0%／29名中）
- ④『エンジンの歴史とスターリングエンジンの仕組みを学ぶ』
⇒（大変満足 27.0%・満足 47.3%・普通 24.3%・不満 1.4%・大変不満 0.0%／74名中）
- ⑤『情報処理[国家試験対策]（基本情報処理）・（ITパスポート）』
⇒（大変満足 67.1%・満足 23.7%・普通 8.6%・不満 0.6%・大変不満 0.0%／152名中）
- ⑥『ビルドアップ（対人接客）・（公務員）』
⇒（大変満足 29.6%・満足 48.2%・普通 22.2%・不満 0.0%・大変不満 0.0%／27名中）
- ⑦『Jプラス（インテリアデザイン）・（福祉と医療）・（流通科学とビジネス）・（観光ビジネス）』
⇒（大変満足 32.4%・満足 60.6%・普通 7.0%・不満 0.0%・大変不満 0.0%／71名中）

●高校教員へのアンケート調査結果（上記①～⑦の総数）

（大変満足 68%・満足 32%・普通 0.0%・不満 0.0%・大変不満 0.0%／25名中）

上記の受講生アンケート結果に基づき、平成22年2月24日開催の成果報告会（中野サンプラザ）時に各地区担当者との会議を行った。まず初めに新型インフルエンザ発症等による影響で、特に関西地区に於いては高校でのカリキュラム調整が付かず実施を見送られた所が数校出た、また、実施に至った高校に於いても本来のプログラム実施時間を短縮するなどをして対応しなければならない状況であった。次に、吉田学園（北海道地区）に於いては、複数の高校と本事業目的のプログラム開発を目指すべく運営委員会を開催したが高校側の条件（例えば、全科対象・カリキュラム調整・単位認定等）が合わず進展出来なかった。以上2点が当初計画より予定外の結果となった。しかしながら、事業の目的である高校生への職業理解プログラムの開発（新設4講座を含む計12講座）と合計1,000名を超える高校生に対して実施ができ満足度も高いことから概ね目的を達成したと思われる。

②次年度以降における課題・展開

●プログラム実施に於ける課題と次年度への展開

①建築科生を対象にしたプログラムでは講師による体験談に高校生自身が魅力を感じ建築士への憧れから高い満足度が得られた。また、③土木科生を対象にしたプログラムも満足度が100%となり、これは高校生自ら「設計⇒製作⇒実験」といった現場での擬似体験が出来たことが効果的であったと思われる。これら①③については改めて各高校へのヒヤリングを行った上で次年度実施を図る。次に②工業高校生（全科）を対象にしたプログラムに於いては当然の事ながら対象科としてのピンポイントがなく【ものづくり】の観点だけでは難しく高校生自身の趣向を考慮した再検討が必要であると考えられる。④機械科生を対象にしたプログラムに於いてもエンジンだけに特化せずにもう少し汎用性を持たせるような内容が必要であったと思われる。②④共に高校側から次年度に向けての要望もあり改善・改良を行って次年度実施を図る。⑤国家試験対策を通したプログラムには目前に目標があることから高い満足度が得られているが、より効果的に職業意識を付けるにはもう少し業界全体を紹介する時間が必要であると思われるのでその点を付加して次年度実施を図る。また、⑥ビルドアップ（2講座）で

は高校側より受講後の「高校生の職業意識が向上した」との具体的な報告もあり目標の達成は出来ていたと思われるが、もう一步踏み込んだ職業的魅力的な伝達が必要であったと考えられるのでその点を改善して次年度実施を図る。次に⑦Jプラス（4講座）での満足度が93%であり高校からも「職業を考える良い機会になった」との高い評価が得られている。今後の課題としては、実習・演習の工夫を如何に図れるかが更なる職業観の意識向上になると思われるので、その点を改良して次年度実施を図る。なお、吉田学園では、これまでの高校側との情報（要望等）を基に学園独自に体育系プログラムについて検討し、次年度に向けて学年進行型で、体育科で学ぶ高校生を対象にした『体育科専攻向け職業理解シリーズ（スポーツ業界とは？）・（スポーツ指導者の仕事とは？）・（スポーツトレーナーの仕事とは？）』、といった内容のプログラムを開発した。現在では、このプログラムを以って対象科を設置する高校との会議をスタートさせている。

最後に、上記に記した様に①～⑦のプログラムについては、次年度に向けての内容の見直しと改善・改良を行いつつ、今年度の開発プログラムを共有しながら3学園協力の基に各地区から全国への普及と、また、新たなプログラムの開発を行うことで更なる高校生の職業理解の意識向上が図れるように推進して行きたいと考えている。